

学科名	電気通信工学科							
科目名	電子回路Ⅰ演習							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)／必修科目(電気エネルギーコース)／必修科目(情報システムコース)							
担当者	江崎 秀							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・オームの法則、キルヒホッフの法則を用いた回路解析ができる。 ・バイポーラトランジスタ(BPT)固定バイアス増幅回路の設計指針を理解し、解析できる。 ・BPT電流帰還バイアス増幅回路の設計指針を理解し、負荷直線を用いて解析できる。 ・BPTを小信号等価回路で表現でき、hパラメータによる回路解析ができる。 ・小信号等価回路表現による電流・電圧・電力増幅度の計算ができる。 							
日程と内容	<p>授業はすべて演習、授業中に解答をチェック、返却</p> <p>4/8 電子回路とは・電気回路復習</p> <p>4/15 半導体・ダイオード</p> <p>4/22 整流回路</p> <p>4/25 トランジスタの基本</p> <p>5/13 固定バイアス回路</p> <p>5/20 固定バイアス増幅回路</p> <p>5/27 回路復習と電流帰還バイアス回路</p> <p>6/3 負荷直線と最適動作点</p> <p>6/10 電子回路Ⅰ臨時試験向け演習</p> <p>6/17 電子回路Ⅰ演習臨時試験向け演習</p> <p>6/24 交流成分とhパラメータ</p> <p>7/1 交流成分とhパラメータ</p> <p>7/8 電流・電圧・電力増幅度</p> <p>7/15 総合演習①</p> <p>7/22 総合演習②</p> <p>7/29 定期試験</p>							
成績評価基準	定期試験	20%	実技	0%	臨時試験	10%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	10%		
	演習	60%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・オームの法則、キルヒホッフの法則を用いた回路解析ができる:達成できた ・バイポーラトランジスタ(BPT)固定バイアス増幅回路の設計指針を理解し、解析できる:達成できた ・BPT電流帰還バイアス増幅回路の設計指針を理解し、負荷直線を用いて解析できる:達成できた ・BPTを小信号等価回路で表現でき、hパラメータによる回路解析ができる:達成できた ・小信号等価回路表現による電流・電圧・電力増幅度の計算ができる:達成できた 							
反省点	<p>昨年度と概ね同じ運営をしたが、93%という高い合格率となった。この年度の入学生が比較的真面目に受講していたことに起因すると思われる。しかし一方で、電子回路Ⅰの定期試験を受験したのに演習の定期試験を放棄した学生が数名いた。電子回路Ⅰよりも合格率が高いのはこのためであり、実質的な合格率は電子回路Ⅰと変わらない。放棄した学生は、他の科目に専念したとのことだが、必修科目なので放棄させない方策を考えたい。</p>							
来年度の計画	<p>例年のように電子回路Ⅰ演習と一体で①座席を出席簿順とした。②演習中心の授業とし、解説は1時間目、2時間目の本授業は学生自身に解答させた。今年度はさらに、配布する例題プリントに回答を書かず、必ずノートに書き写させるように指示した。しかし若干の横着な学生には徹底できなかったため、来年度はノートをとる習慣を徹底させたい。</p>							
授業評価アンケートに対するコメント	<p>総合評価で平均8.3点は昨年度より0.1点低いが、8以上であり特に問題ない。来年度は自由記述アンケートの早期実施をし、学生の要望を取り入れたい。</p>							
履修登録者数	61名	定期試験受験者数	55名	合格者数	51名	合格率	93%	